

過去のガラスヒバァ咬症について

沖縄県衛生環境研究所

衛生科学班 上江洲由美子 寺田考紀 大城聡子 盛根信也

I はじめに

平成21年度までの抗毒素報告書において、1980年にガラスヒバァの咬症件数が1件ある旨掲載していたが、当該事例について文書による記録が残っておらず咬症事実が確認できない等の理由で平成22年度抗毒素報告書からは削除することとなった。

しかし、今回咬症被害者本人から当時の状況について確認をすることができたため、今年度報告書から咬症件数データを改めることとした。ガラスヒバァによる咬症被害事例は過去においてもあまり報告されておらず、大変貴重な症例であるためここに報告する。

II 咬症状況（咬症被害者談）

発生時期、時間、場所：1978年8月、午前中、国頭村奥間

状況：山を散策中、大きなガラスヒバァ(全長100cmくらい)を見つけ、捕獲しようと手を出したら指を咬まれた。S字体形のヘビが前半身をシュッと伸ばし、頭が手に当たった。カミソリで切られたような痛みがあり、指を見たら1cmあまりの傷口があった。アカマタに咬まれたような傷(ハブのような毒牙によるものではなく、複数の歯型がついたような傷)だったと記憶している。

症状としては出血が止まらなかったという記憶がある。タオルで咬症部位を巻いて押えたが、1時間以上経過しても血は止まらず、タオルが血で染まり、端から少し滴り落ちるくらいの状態。その後、帰宅した夕方頃には血は止まっていた。関連性は不明だが帰りのバスの中でもものすごい眠気あった。翌日は咬症部位が少し痛いだけで、過去に咬まれたアカマタの時と違いは無かったので医療機関も受診しなかった。

謝辞

今回のガラスヒバァによる咬症被害事例の詳細情報収集について、咬症被害者ご本人並びに中部福祉保健所生活衛生班西村昌彦氏に多大なご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。